

校訓	真善美	令和7年度 学校だより	発行日	令和7年10月29日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を 創造する生徒の育成 -認め合う心 確かな学力 健やかな心身を育てる-	「荒中だより」 10月 神無月 第15号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

学習発表会 ～努力の軌跡 晴れやかなる集大成～

10月23日・24日に学習発表会を開催しました。荒中生の学びの足跡を実感できる2日間でした。展示発表では、個性輝く作品がたくさんありました。部活動や各教科の成果を、多くの人に見てもらえたこと、本当にうれしく思います。また、細かなところまで気を配って準備してくれた役員の方、係が重なった友達の代わりに働いてくれた人、他のクラスの展示も快く手伝ってくれた人など、生徒のみなさんの力で行事を支えてくれ、気持ちが温くなりました。ありがとうございました。



合唱コンクールでは、さすが3年生！でした。自信を持って、堂々と誇らしげに歌い上げる姿に感動しました。声量や強弱の工夫はもとより、合唱にかける思いの深さが伝わってきました。2年生、舞台上でのキリッと引き締まった表情が印象的でした。どのクラスも練習の時よりも素晴らしく、クラスのまとまりを感じました。1年生、初めてのステージを、はつらつと一生懸命な態度で経験することができました。先輩の背中を見て、まだまだこれから成長できると思います。



午後の舞台発表では、どれもとても楽しく、笑顔が弾け、そしてもちろん、学びもありました。楽しむところと聞くところの切り替えもできており、感心しました。各学年の発表はこれまでの軌跡をまとめ、集大成として仲間と共有できる良い機会となりました。英語スピーチ、コーラス部、吹奏楽部も、これまでの練習の成果を存分に発揮し、聞く人の心を打つ立派なステージでした。また、急遽開催された校歌コンクールも臨機応変に対応するなど、全体を通して、荒中生の底力を感じたひと時でした。

最後に、体育大会に引き続き、お忙しい中、お越しいただいた保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

さて、2学期も中盤にさしかかり、大きな行事も終わりました。みなさんは、日々の生活や友達との関係で、何か小さなほころびや引っかかりはないでしょうか。軽い気持ちでルール違反やマナーを欠くふるまいをするなど、不注意な行動を取っていませんか？また、朝起きられなくなったり、いつまでもスマホを触っていて寝るのが遅くなったりして、生活リズムが崩れてはいないでしょうか？

“桐一葉 日当たりながら 落ちにけり” ～高浜 虚子～

この俳句は、俳人高浜虚子の有名な秋の句です。桐の葉が一枚、日の光に照られながらゆったりと落ちていく様子を詠み、季節が秋へと移ろう様子をしみじみと感じさせてくれます。季語は「桐一葉」。桐が他の植物よりも一足早く葉が落ちる様子から、秋の訪れを表現した季語です。転じて、中国や日本の古典では、物事の小さな一端から全体の動きを察知する「変化の予感」、特に「物事の衰退する兆しのたとえ、不吉の前兆を察する言葉として、単なる「木の葉」という意味を超えて用いられてきました。



中国の哲学書「淮南子」に由来する故事成語に「一葉落ちて天下の秋を知る」という言葉があります。これは、小さな前兆や予兆から、後に起こる出来事を予見することを意味します。また、些細な出来事が、後の大きな変化の始まりにつながることのたとえや、見えない将来の動きを、小さな兆候から見抜く力があることのたとえとしても使われます。

節目で自分の行動を振り返り、人への接し方や物事に対する思い方を見つめ直すことは、日々の生活を安定させ、大きな失敗や、取り返しのつかない出来事を防ぐことにもつながります。特に3年生は、学習到達度調査や予備懇談など、いよいよ進路に向けた大きな動きが始まります。2年生も神戸への校外学習も控えています。1年生は学校生活に慣れ、少し緩みが出てくる時期だとも思います。

いい機会ですので、今一度、「今、自分はどうであるか」を見つめてみませんか。そして、悩みや不安など、何か気になることがあれば、きっと先生方が力になってくれます。早めに相談するなどして、解決を図り、自身の成長につなげましょう。